

# 持続可能な社会に向けた情報発信

大和証券グループは、持続可能な社会の実現のために、広く社会に向けた働きかけを実践していきます。サステナビリティ教育、経済・金融教育や政策提言活動を通じた情報発信を行い、調和のとれた社会の実現を目指します。

## 経済・金融教育の取組み

大和証券グループは、次代を担う青少年たちが社会に参加する際に、知識・知恵をいかに発揮してさまざまな分野で活躍していくことを願っています。そのためには経済知識を身につけるだけでなく、金融や社会の仕組みを学び、生きる力を育てることが大切です。そのために、大学・高校・中学校・小学

校のそれぞれのステージに適した方法を通して、私たちが蓄積してきた知識・知恵を伝承していきたいと考えています。

WEB版 活動報告 ●経済・金融教育分野図

### 2007年度の課題・目標

- サステナビリティに関する啓発活動を強化
- 中学・高等学校の生徒を対象とする経済・金融教育の取組みを推進

### 2007年度の実績・進捗状況

- ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジの開催、CSR室スタッフが大学で講義を実施
- 中学・高校教員に向けた情報発信の支援、金融・経済テキストの制作・提供、企業見学対応、NPOとの協働による教育プログラムの支援などを実施

### 大和証券グループにおける主な産学連携活動

2007年度実施の寄付・協力講座	
大学名	テーマ(タイトル)
一橋大学大学院 国際企業戦略研究科	大和証券グループ企業戦略創造講座
慶應義塾大学 総合政策学部	コーポレートガバナンス論
慶應義塾大学 政策メディア研究科	ソーシャルファイナンス
早稲田大学 オープン教育センター 全学共通科目	ベンチャー起業家養成基礎講座
京都大学大学院 経済学研究科	証券システム論(春期)、証券投資手法(秋期)
京都大学 全学教養課程	現代の経営学B
京都大学大学院 医学研究科	アントレプレナーシップ論
明治大学(駿河台キャンパス)	ベンチャー起業アイデアの創出とビジネスプランの構築 ※2007年度から新設
中央大学 法学部	国際ベンチャービジネスと法 ※2007年度から新設
日本大学 商学部	ベンチャー創業実践講座 ※2007年度から新設
カンファレンス・シンポジウム・インターン・その他	
大学名	テーマ(タイトル)
京都大学大学院 経済学研究科	2007 Daiwa International Workshop on Financial Engineering
京都大学大学院 経済学研究科	インターンシップ ※当社寄付講座の受講生対象
一橋大学大学院 国際企業戦略研究科	第7回ポーター賞 ※2001年設立から7回目の協賛。なお、2008年度の第8回ポーター賞[12/4開催]へ協賛予定

## 産学連携とアジアへの展開

大和証券グループは、大学・大学院における産学連携として、さまざまな大学での寄付講座の提供に加え、専門知識を有する役職員を講師として派遣しています。

早稲田大学で実施している「ベンチャー起業家養成基礎講座」では、出身の学生によって立ち上げられた複数のベンチャービジネスが軌道に乗りつつあり、現在も講師によるアドバイスを適宜行なっています。2007年度には、明治大学、日本大学、中央大学においてもベンチャー起業家養成講座を新設し、人気講座となっています。また、iPS細胞\*の研究成果の社会への適切な還元を促進するため、2008年5月に京都大学のiPS細胞研究の事業化への支援に合意しました。

大和証券グループは、産学連携のアジア地域での拡充を図っています。2008年5月には中国の経済・社会の発展に貢献できる人材の育成を目的として、北京大学 知識産権学院において寄付講座「ハイテクベンチャーの価値創造」を開設し、役職員を講師として派遣しています。

一方で、アジア地域からの留学生を対象とした資金支援および日本とアジア間の人的・学術交流の促進のため、東京大学と共同で「大和証券グループ アジア留学生奨学基金(仮称)」を創設します。総額2億円の寄付を行い、今後5年間にわたりインドやほかのアジア地域からの留学生を総計で100名程受け入れるほか、アジアをテーマとした各種シンポジウムを開催します。

\* iPS細胞:人工多能性幹細胞とも呼ばれる。人体のさまざまな組織や臓器に成長できる万能細胞の一種。皮膚などから採取した体細胞に数種類の遺伝子を導入して作製する。

## 高校生への経済・金融教育 スチューデント・カンパニー・プログラム

スチューデント・カンパニー・プログラム(SCP)は、青少年経済教育NPO「ジュニア・アチーブメント日本」が提供するアメリカ発祥の中学生・高校生への実践型経済教育プログラムです。生徒が16週間にわたって株式会社を設立し、資金調達から製造・販売、財務管理までの運営を行います。大和証券グループは、京都の立命館高校が授業の一環として取り入れているSCPに、2003年の開始当初から参画。役職員が社外取締役として毎週授業に参加、協力しています。

2007年は24名の生徒が、「株式会社SHIN」を設立し、手づくりのカイロケースやプレスレットなどの製造販売を行いました。材料調達や商品の工夫、製造、また販売場所の確保から実際の販売、経理などのなかで、生徒たちは不良品の発生や販売不振、経理ミスなどの難題にぶつかりながらも、一丸となって企業の舵取りを試みました。その結果、3万3千円の最終利益を上げることができました。

活発なコミュニケーションによる組織の円滑な運営や、目標に向けた問題解決などを通して、生徒一人ひとりが成長できるSCPに、大和証券グループは今後も協力していきます。



商品販売の様子

WEB版 活動報告 ●中学生への経済・金融教育 ファイナンス・パーク

WEB版 用語解説 ●ジュニア・アチーブメント日本

## ステークホルダーからのコメント

### SCPを体験して

SCPの体験は私にとって一生忘れることができない貴重な時間でした。商品の開発、生産、販売のすべてが初めての経験だったので戸惑うことはかりでした。また会社の代表である社長という立場から、「社員のみんなを引っ張っていかなければならない」と悩んだこともありました。しかし、お客様に商品を買っていただいた時の喜びが、私やほかの社員に元気とやる気を与えてくれました。社員、社外取締役の方、先生、そしてお客様とのかかわりで、ただ机に向かって勉強するだけでは学べない会社経営の難しさや楽しさ、人とのかかわりの大切さを学びました。SCPを提供して下さったすべての人たちに感謝しています。



立命館高等学校3年  
上田 和枝氏

## 持続可能な社会に向けた情報発信

### 一般への経済・金融教育

大和証券グループは、業界で唯一、証券情報専門のTV放送局「ダイワ・証券情報TV」を運営し、「楽しく学ぼう!証券タイム@TV」などわかりやすい証券・金融情報の提供に努めています。2007年度から全国101局のケーブルTV局に配信を開始。1,300万世帯が視聴可能となりました(2008年3月末現在)。

2008年6月にはハイビジョン仕様のスタジオを新設。また、新本社ビルの1階にお客様にご覧いただけるオープンスタジオを設置し、親しみの持てる情報発信に努めています。



新本社ビル1階 ダイワ・証券情報TV  
オープンスタジオ

### 政策提言活動

#### 国際会議等での情報発信

2007年11月、大和証券グループ本社取締役会長の清田瞭は、オーストラリアで開催された、経済団体と気候変動をテーマに議論を行う「第21回民間経済団体国際会議」に出席、それに先駆けて首都キャンベラでは、豪州政府関係者とも面談し、豪州における温暖化対策や日豪での協力等に関して意見交換を行いました。

また清田は、2008年1月にスイスで開催された世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)、また2008年6月にバルセロナで行われた国際通貨会議に出席。政界や海外の企業経営者と活発な意見交換を行なっています。



大和証券グループ本社  
取締役会長

清田 瞭

#### 少子化対策への取組み

大和証券グループ本社執行役社長の鈴木茂晴は、2007年5月より日本経済団体連合会の「少子化対策委員会」の共同委員長を務めており、経済界、産業界を代表し、企業として行うべき少子化対策の推進や国や地方における子育て環境整備の提言等を行なっています。少子化対策委員会では、少子化傾向を反転させるため、政府・企業・国民が実効ある取組みを行うことを目指し、包括的な次世代育成支援の枠組みのあり方について、意見のとりまとめと働きかけを行います。また日本経済団体連合会の会員企業に対して、ワーク・ライフ・バランスの自主的な推進を呼びかけます。

企業が「仕事と育児の両立支援」を推進し、「ワーク・ライフ・バランス」を実現していくことは、少子高齢化社会の進行を抑制する地道な対策でもあり、日本社会の持続的な発展に向け

て不可欠なものであると考えています。大和証券グループでは、少子化対策に貢献する企業の取組みを広めていくべく、活動事例の提示や提言活動を進めていきます。



大和証券グループ本社  
執行役社長

鈴木 茂晴

### サステナビリティに向けた情報発信

#### CSRウェブサイト/ サステナビリティと資産運用

大和証券グループ本社のホームページでは、大和証券グループのさまざまなCSR活動の報告だけでなく、広く社会にサ

ステナビリティやCSRの知識を広めるため、CSRの一般的な情報や持続可能な社会実現のための情報を発信しています。CSRやSRI、環境問題についてわかりやすく解説するとともに、大和総研の研究者による調査レポートやCSR分野の第一線で活躍している有識者との対談など、社会から関心の高い

CSRの最新情報を掲載しています。

また、大和証券投資信託委託のウェブサイトでは、サステナビリティと資産運用の専用コーナーを設け、SRIの最新ニュースなどを提供しています。



グループ本社 CSRウェブサイト  
<http://www.daiwa-grp.jp/branding/>



大和証券投資信託委託  
サステナビリティ・ウェブサイト  
[http://www.daiwa-am.co.jp/guide/jfs/jfs\\_index.html](http://www.daiwa-am.co.jp/guide/jfs/jfs_index.html)

## ダイワJFS・ 青少年サステナビリティ・カレッジ

大和証券グループでは、ダイワ・エコ・ファンドの販売・運用による収益をもとに、NPOのジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)とのパートナーシップによる寄付講座「ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ」を2006年10月より開催しています。大学生を中心に約190名の学生が登録し、2007年度は「公平性(世代間・地域間)とサステナビリティ」をテーマに、毎月1回、約40名程度の学生が専門家からの講義を受けています。

また、毎月1回、約40名程度の学生が専門家からの講義を受けています。

本カレッジの受講者のうち、フードマイレージや食のトレーサビリティに関心をもつ学生グループが課外授業として食品メーカーを訪問。また、アジアのサステナビリティについて、シンガポールの大学生と意見交換会をするなど、本カレッジが契機となって学生たちの自発的な活動の拡大につながっています。

### 開催実績(2007年10月～2008年9月)

- 第1回:10月 公平・公正な社会づくりと環境倫理
- 第2回:11月 地域の力を引き出し都市とつなげる
- 第3回:12月 森の豊かさを次世代に残す意味
- 第4回:1月 食と農を通して考える日本と世界
- 第5回:2月 貧困を生まない貿易～フェアトレードを広めるために
- 第6回:3月 地域を潤す地域のお金
- 第7回:4月 地域のファスト風土化とサステナビリティ
- 第8回:5月 貧困とサステナビリティー日本の格差社会とは？
- 第9回:6月 先進国で起きる「飢餓問題」の構造
- 第10回:7月 ソーシャルキャピタルを生かして「負の遺産」を乗り切る
- 第11回:8月 古いものに命を吹き込む伝統の力
- 第12回:9月 ソーシャル&エコ・ビジネスが生み出すイノベーション

### ステークホルダーからのコメント

#### ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジの価値

私は1年目から参加しており、大学でもサステナビリティについて学んでいますが、本講座ではサステナビリティについて体系だてて学べることに価値があると思っています。そして、本講座では研究者に加え、フィールドで活動されている方に講義をしていただくことで多角的に学んでいます。このような本講座をNPOと協同で開催していることから、次世代の私たちに何かを託したいという大和証券グループの想いを感じます。その想いに応えられるよう、これからも積極的に参加し、将来、社会に貢献できる人材になりたいと思います。残り2年余りの講義にも期待しています。

武蔵工業大学 大学院  
環境情報学研究所  
環境情報学専攻 修士1年  
市川 誠之氏



### 2008年度の目標と主な行動計画

経済・金融教育の分野では、大学・大学院の産学連携プログラムの充実に加え、わかりやすいテキストの作成など、中・高校生の経済や社会の仕組みに関する理解を高めるための取組み

を進めます。またCSRウェブサイトにおけるサステナビリティ情報の発信をさらに拡充していきます。